

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第四小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 児童の実態を踏まえた題材の指導計画の工夫を行うことにより、音楽に親しみながら意欲的に学習する児童が増えた。
- ・ 器楽や歌唱の技能習得の確認をするために、タブレットで演奏を録画し振り返る学習を繰り返し行うことで、自己の課題を把握でき、改善に向けて学び続ける児童が増えた。
- ・ 鑑賞では、聴くための視点を明確に提示したり、児童同士の意見交換の機会を意図的に設けたりすることで、音楽を聴き深めることのできる児童が増えた。

(2) 課題

- ・ 音程や自分の音楽表現に自信が足りず、豊かに声を響かせて歌うことが難しい児童がいる。
- ・ 器楽や歌唱の技能習得に時間が掛かり、思考判断をしながら表現活動を深める課題を達成できない児童がいる。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音楽の雰囲気や特徴に気が付くようにする。 正しい音程で歌ったり、色々な 楽器で簡単な曲を楽器で演奏したり、音楽を作ったりすることができるようになる。	音の響きや曲の特徴を感じ取りながら、思いや意図をもって音楽の表現を工夫したり、楽しさやよさを感じながら聴いたりすることができるようになる。	声や楽器の音色や響きに関心をもって、様々な音楽を感じながら、友達と共にすすんで音楽活動をするを目指す。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音楽の雰囲気や特徴に気付くようにする。 正しい音程で歌ったり、色々な 楽器で簡単な曲を楽器で演奏したり、音楽を作ったりすることができるようになる。	音の響きや曲の特徴を感じ取りながら、思いや意図をもって音楽の表現を工夫したり、楽しさやよさを感じながら聴いたりすることができるようになる。	声や楽器の音色や響きに関心をもって、様々な音楽を感じながら、友達と共にすすんで音楽活動をするを目指す。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
演奏の技能定着のために繰り返し学習活動するが、声掛けの工夫により活動の視点を明確にして行う。また、必要に応じて、個別学習をする。	音の重なり合う響きや曲想の変化を感じ取りながら、思いや意図をもって音楽表現を工夫したり、曲や演奏を味わって聴いたりすることができるようになる。	声や楽器の音色が重なり合う響きに関心をもって、様々な音楽を味わいながら共同して主体的に音楽活動をするを目指す。